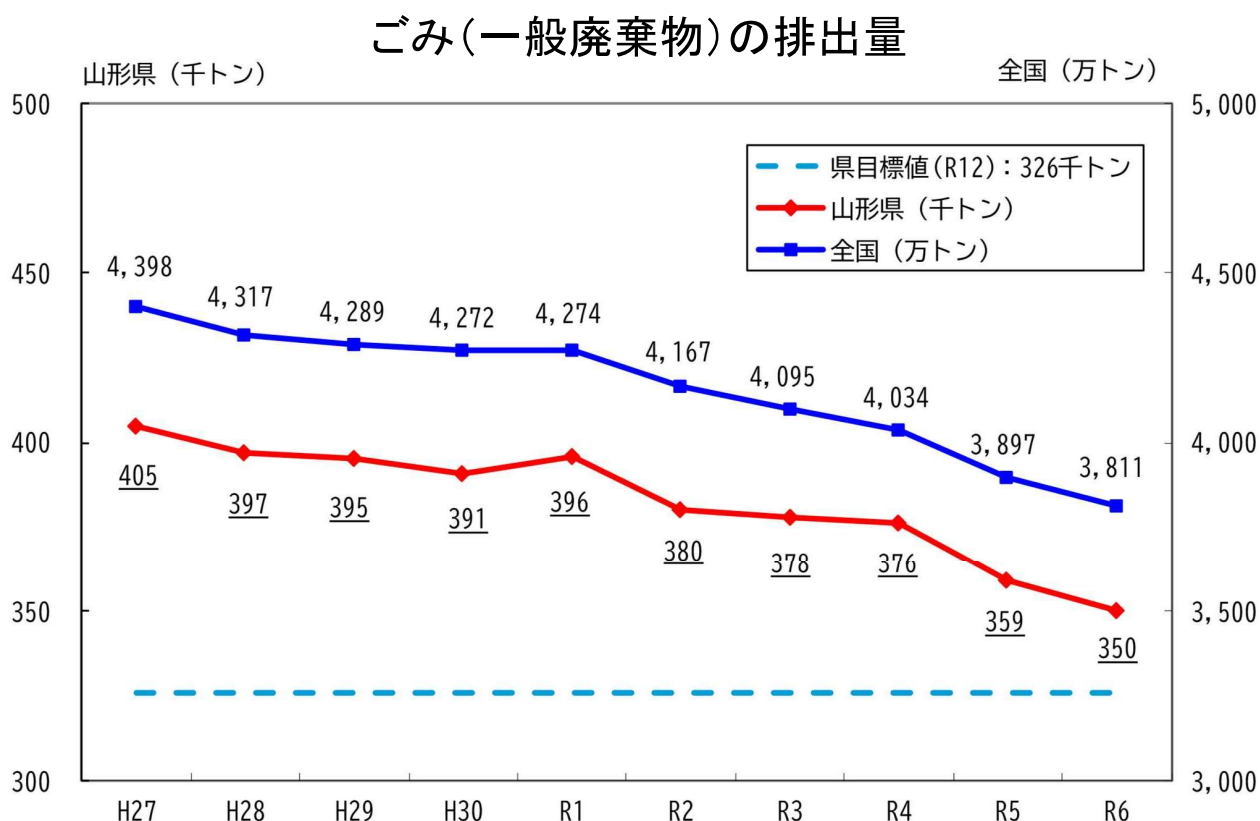
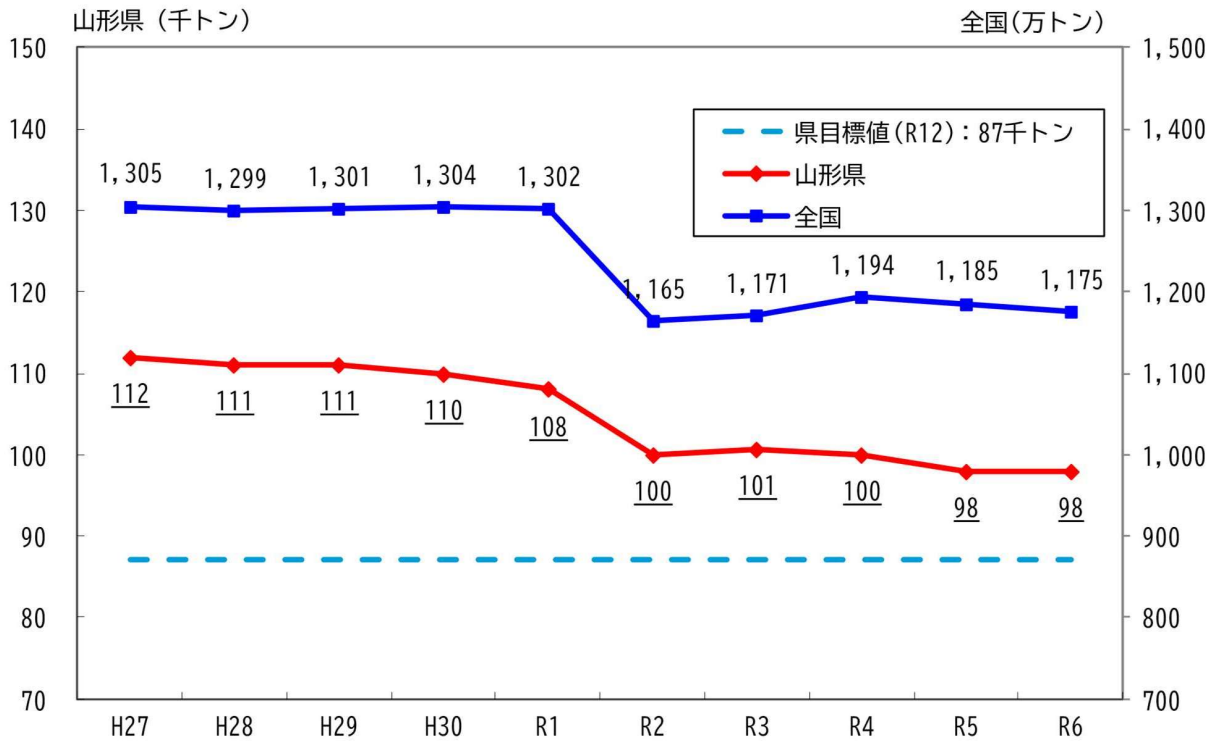


第3次山形県循環型社会形成推進計画 の目標に掲げる基本的数値の現状について



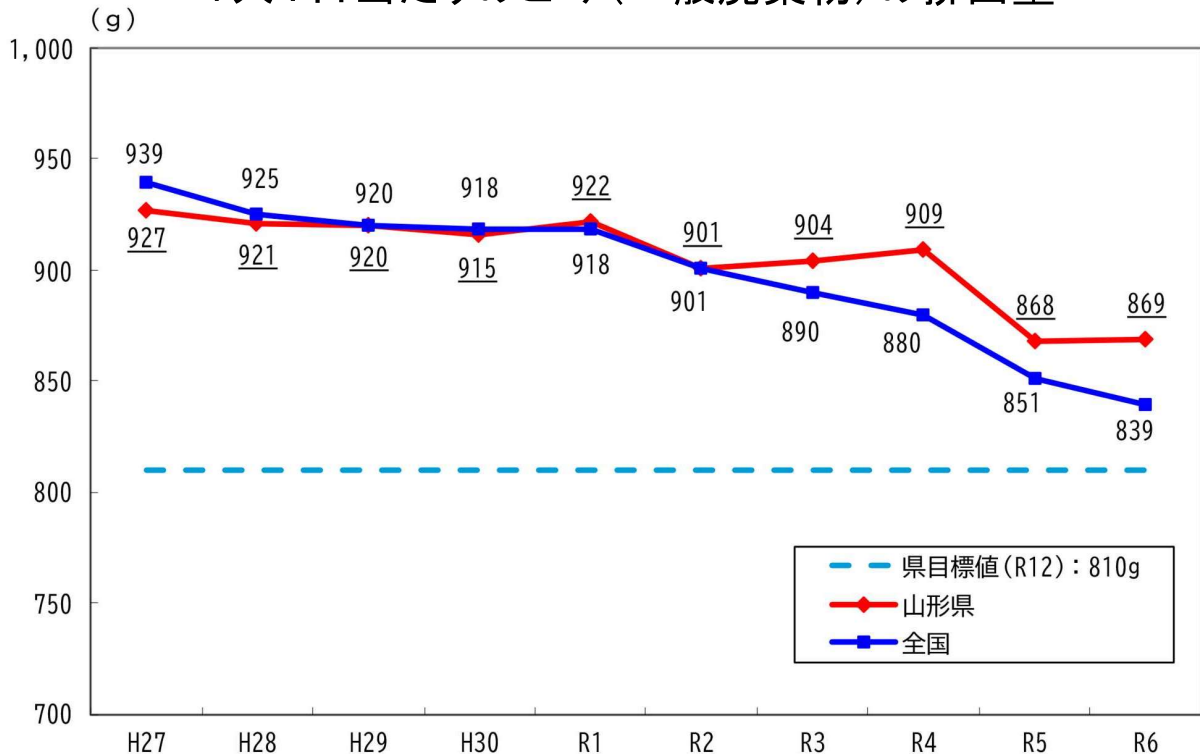
長期的に減少傾向を示している。人口減少の影響もあるが、「ごみゼロやまがた県民運動」の展開や、「やまがた環境展」の開催、環境教育の実施などにより県民の3Rに関する意識の向上が図られたものと考えられる。

事業系ごみ(一般廃棄物)の排出量



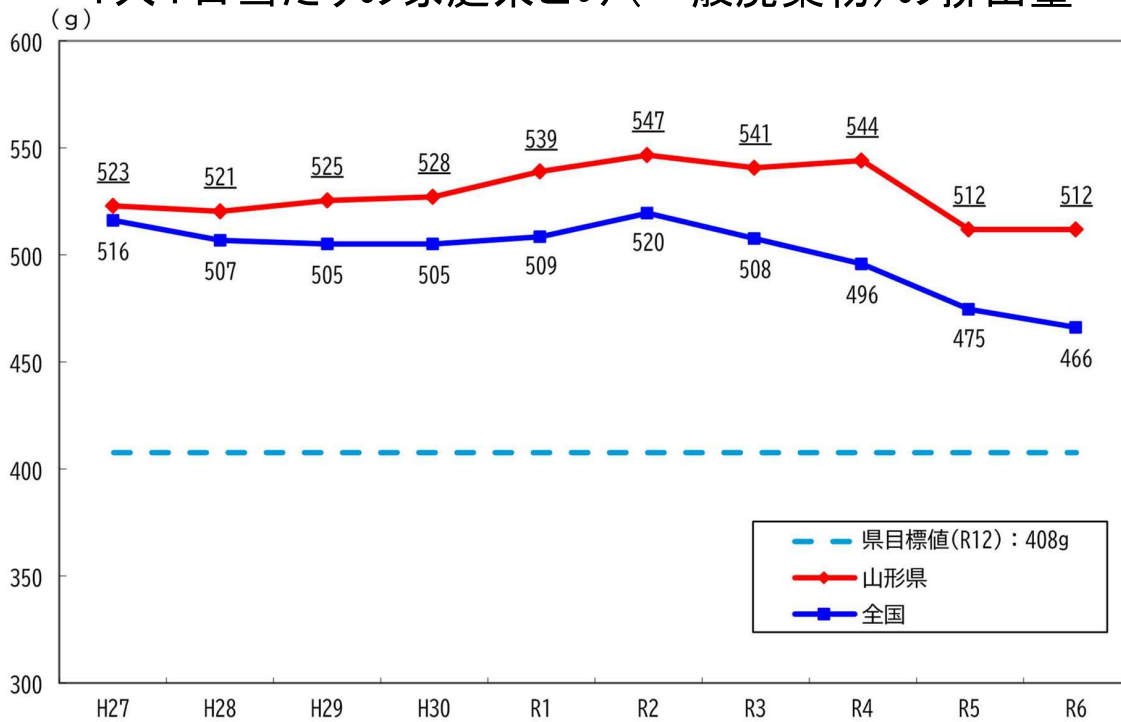
令和2年度はコロナ禍の影響により大きく排出量が減少し、それ以降は概ね横ばいで推移している。長期的には減少傾向を示しており、事業者の3Rに関する意識の向上が見られているものと考えられる。

1人1日当たりのごみ(一般廃棄物)の排出量



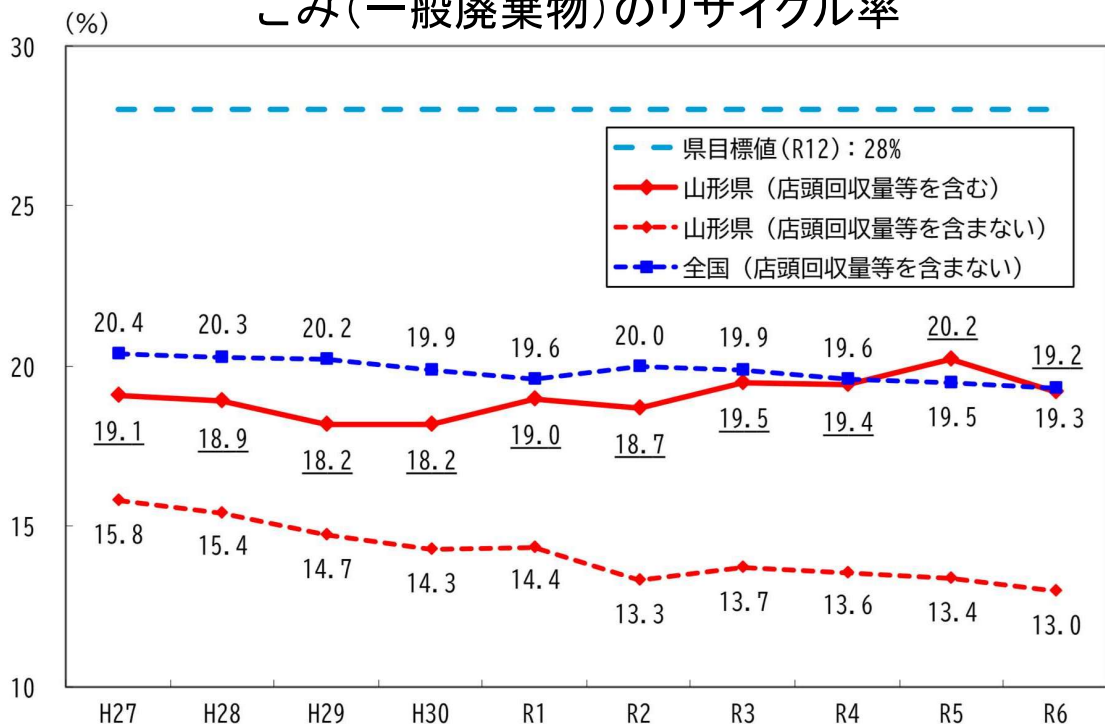
コロナ禍や災害等の影響による一時的な増加があったものの、長期的には減少傾向にある。それでもなお、全国平均を上回っている。

1人1日当たりの家庭系ごみ(一般廃棄物)の排出量



令和2年度にかけて、コロナ禍や人口減少・少子化に伴う資源回収の機会の減少が要因と考えられる増加が見られたが、その後は災害等の影響による一時的な増加はあるものの、概ね減少傾向にある。それでもなお、全国平均を上回っている。

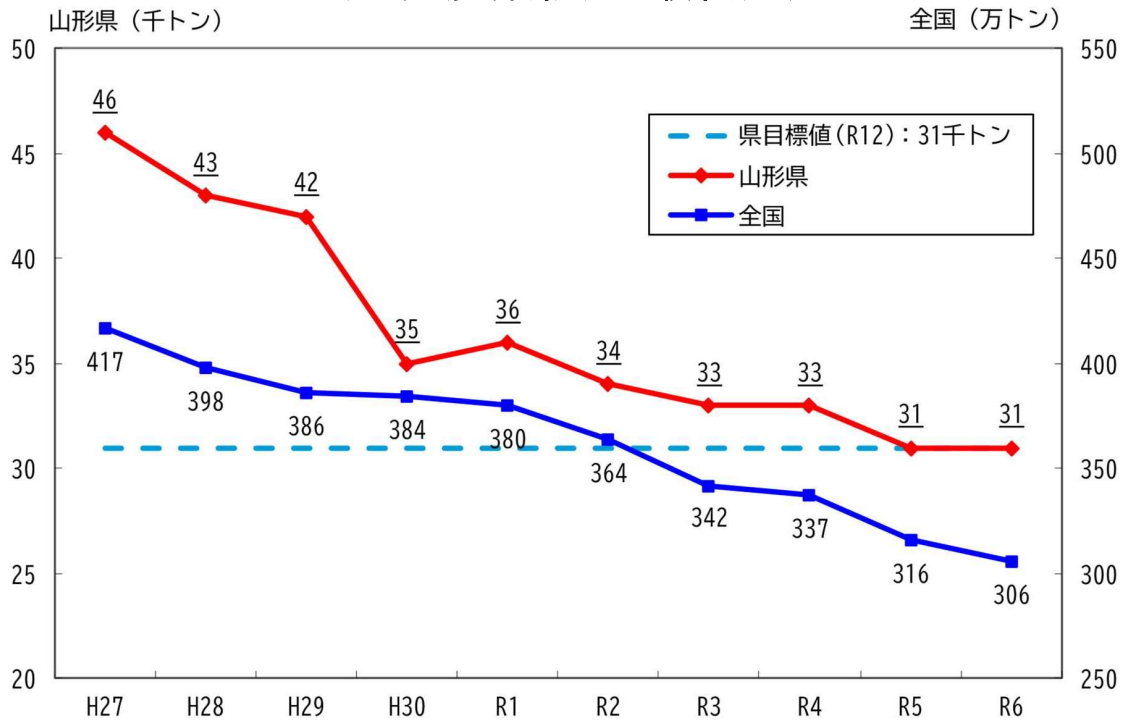
ごみ(一般廃棄物)のリサイクル率



※ 第3次山形県循環型社会形成推進計画では、店頭回収量等を含むリサイクル率を目標指標として管理している。

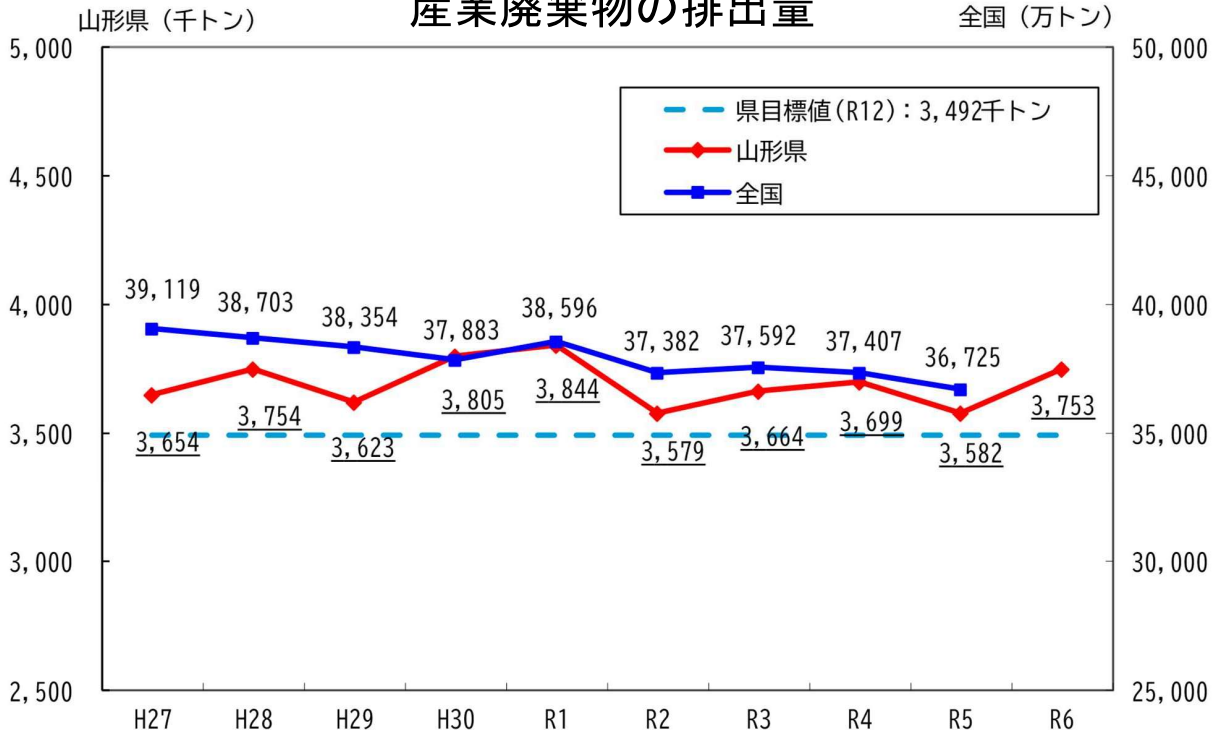
山形広域環境事務組合のごみ焼却施設の更新に伴う焼却残さ(溶融スラグ)のリサイクルの開始に加え、店頭回収量や家電リサイクルルートによる処理量等の増加により、平成29年度以降、リサイクル率は上昇傾向にあったが、令和6年度は前年度からの低下がみられた。

ごみ(一般廃棄物)の最終処分量



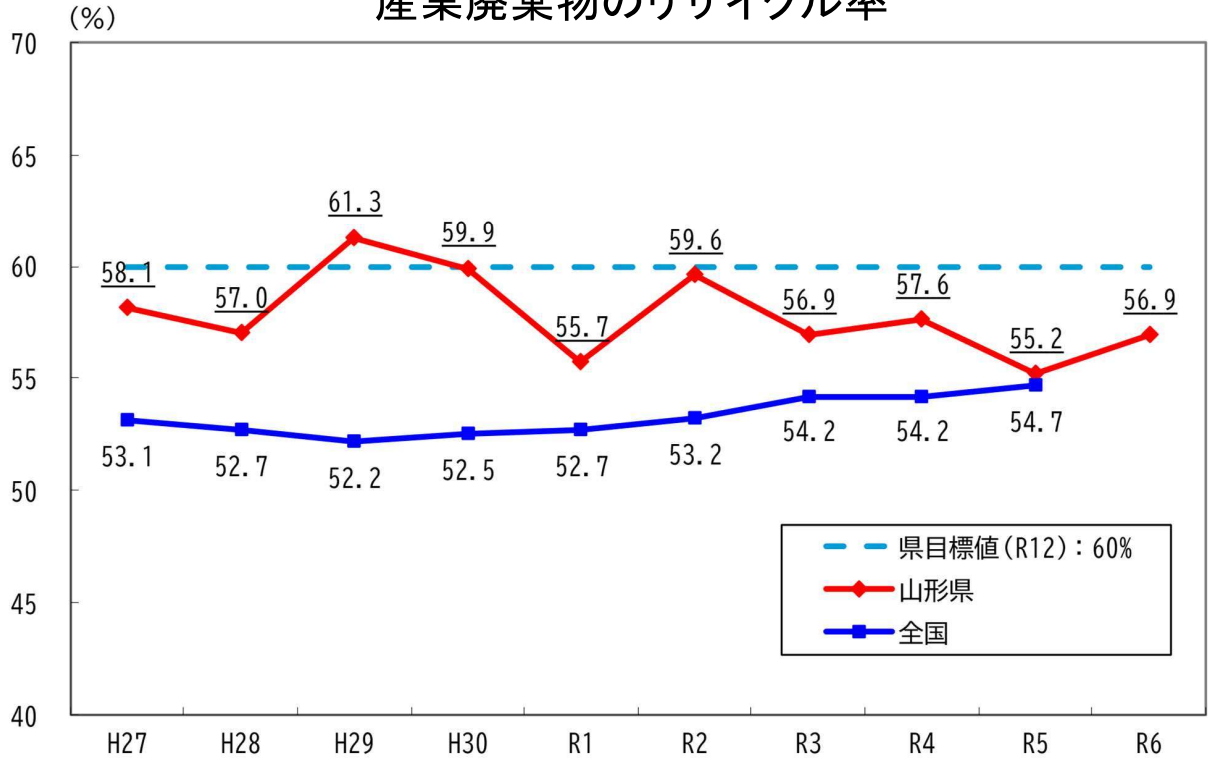
ごみの排出量・焼却量の減少に伴い焼却残さが減少傾向にあることに加え、焼却残さ(溶融スラグ)のリサイクルの推進により、長期的に減少傾向にある。

産業廃棄物の排出量



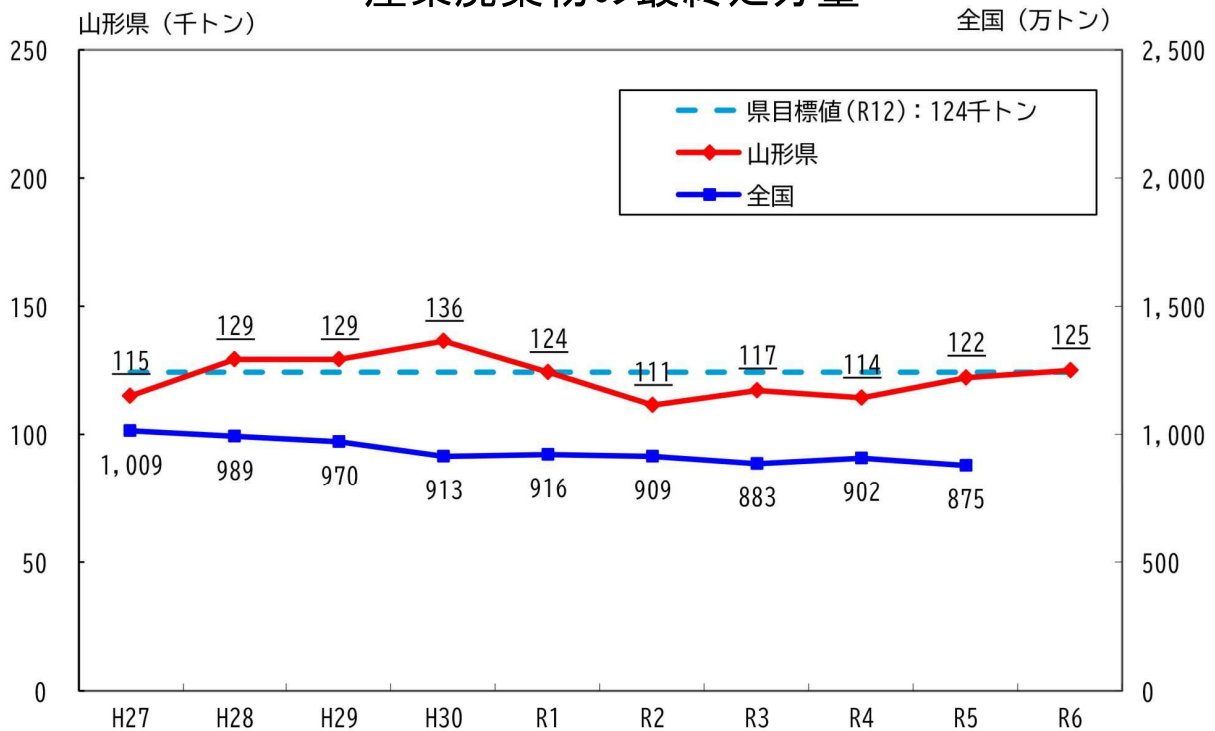
業種ごとの経済活動の状況が産業廃棄物の排出量に影響する。令和6年度は県内での道路工事において大規模な林地開発があり、多量の「木くず」が発生したことが、増加の主な要因となっている。

産業廃棄物のリサイクル率



令和6年度はリサイクル率が高い「木くず」の排出量が増加したため、リサイクル率が上昇した。

産業廃棄物の最終処分量



平成27年度頃までは、長期的に減少傾向にあったが、それ以降は令和12年度目標値である124千t前後で推移している。